

キーワードから適切なキーセンテンスへ

学術担当副会長 池田 尚 治

物事や事態を適切に評価し、判断するに際し、まず、キーワードを掲げることは大いに有益なことであります。いくつかのキーワードをリンクすることによって思考が生まれ、考え方や主張の方向を見出すことが可能となります。重要なキーワードが思い浮かばなかったときには、考え方に大きな偏りができたり、場合によっては誤った主張を述べることとなります。

現時点での日常のキーワードは不況、リストラ、景気回復、少子化、環境、リサイクル、情報、21世紀などでしょう。これらのキーワードをリンクすれば恐らく明るい未来を描くようなキーセンテンスを作り出すことはなかなか困難かもしれません。キーワードの選択が特に重要になります。

そもそも景気が回復して消費が盛んになれば資源やエネルギーを使い、環境を悪化させることとなります。「経済の活性化こそ最重要の目標である」といったキーセンテンスは、地球環境から考えれば矛盾の多い主張です。また、リストラは首切りと同義語のように用いられていますが、人間社会の進歩に応じてリストラクチャリングすることは当然のことで、これを行わなければ硬直化して発展は望めません。むしろ、リストラは人間社会の進歩の象徴と考えるべきでしょう。社会システムとしては未来を予測、あるいは可能ならば未来を設定してリストラを組込んだプログラムを実行するのがよいのです。ただし、設定する未来は確率的なことや予測不能の事態もあるので当然複数の想定をしておくこととなります。「景気」は社会活動の状況を示すもので決して目標ではない筈です。人間性豊かで健康的な社会を構築することが本来の目的であり、そのために生物環境を最重要視し、着実に社会基盤を整備することが必要です。言うは簡単ですが実に多くの障害がありますし、方法論も定かではありません。「景気が良い」

ことはよいことだと無意識に思い込まされているのであって、本来は着実な経済活動によって活力ある社会が支えられることが大事なのです。「景気の動向に左右されることなく着実に健全で豊かな社会を一步一步構築し、未来に責任を果たす」というキーセンテンスを掲げれば、自ら不況と言われている状態から脱出して明るい未来が描けるものと考えますが如何でしょうか。

さて、コンクリートに関する最近のキーワードは早期劣化、耐久性、コールドジョイント、などです。PC技術協会では昨年9月に同協会理事会としての公式な見解を出し、会誌（No. 6, Nov. 1999）に発表致しました。当日本コンクリート工学会では、この見解を一步進める形で「コンクリート施工基本問題検討委員会（小野紘一委員長、松崎育弘副委員長）を組織して本年1月より基本的な視点から検討を開始致しました。

3層に25回ずつ突いて行うスランプ試験や4週強度で品質検査を行ってきた今までのコンクリート工学も今やリストラクチャリングが必要なのだと思います。今後の人工環境を形成する基本要素はコンクリート技術なので大きな夢を持って価値ある研究、価値ある開発を進めることが肝要です。社会に責任を果たすためにもコンクリートに関する総合的な研究所の設立が望まれます。エジプトのピラミッドやギリシアのパルティノン神殿を通して過去を見るように「コンクリート技術、コンクリート構造物を通して未来社会を見る」をキーセンテンスとしたいと思いますが会員諸氏のお考えは如何でしょうか。

いけだ・しょうじ
横浜国立大学教授
工学部建設学科

